

令和5年度 病害虫発生予察情報

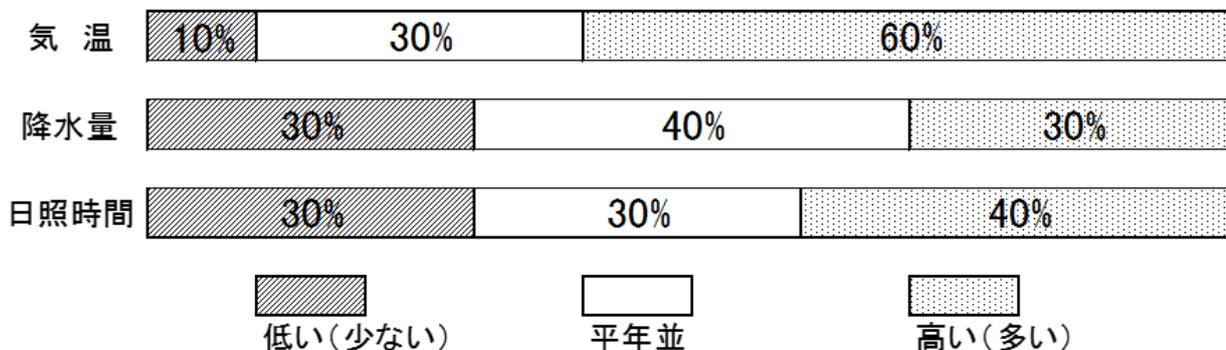
発生予報第5号（7月下旬～8月中旬）

令和5年7月18日
島根県

予報の概要

| 区分 | 農作物名 | 病害虫名 | 予想発生量 | | |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----|----------|
| 普通作物 | イネ | 葉いもち | 平年並 | | |
| | | 穂いもち | 平年並 | | |
| | | 紋枯病 | やや少ない～平年並 | | |
| | | 白葉枯病 | 平年並 | | |
| | | 縞葉枯病 | 平年並～やや多い | | |
| | | ヒメトビウンカ | 平年並～やや多い | | |
| | | ニカメイチュウ | 多い | | |
| | | ツマグロヨコバイ | 平年並 | | |
| | | セジロウンカ | やや少ない～平年並 | | |
| | | トビイロウンカ | 平年並 | | |
| | | コブノメイガ | 平年並 | | |
| | | 斑点米カメムシ類 | やや多い | | |
| | | 果樹 | ナシ | 黒斑病 | やや少ない |
| | | | | 黒星病 | 平年並～やや多い |
| シンクイムシ類 | やや多い | | | | |
| ハダニ類 | 平年並～やや多い | | | | |
| アブラムシ類 | 平年並 | | | | |
| うどんこ病 | やや少ない～平年並 | | | | |
| カキ | カキ | チャノキアザミウマ | 平年並 | | |
| | | カメムシ類 | やや少ない | | |
| 果樹全般 | | カメムシ類 | やや少ない | | |

中国地方1か月予報(7月15日～8月14日・広島地方气象台7月13日発表)
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

① 7月中旬の巡回調査(70ほ場)では、発生ほ場率が4.3%(平年5.9%)、発病株率が2.0%(平年2.2%)と発生量は平年並みであったが、一部地域で発生が多いほ場もみられた。

② 7月中旬までの感染好適日の出現回数は平年に比べてやや少ない

③ 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) 穂いもち

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 伝染源となる葉いもちの発生量は平年並みと予想される。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(3) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は4.3%(平年7.9%)、発病株率が0.2%(平年1.2%)と発生量は平年に比べてやや少ない。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生地方 県内常習発生地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 7月中旬の巡回調査では発生を認めていない。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) 縞葉枯病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 媒介虫のヒメトビウンカの発生量は平年並～やや多いと予想される。

② 4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%(平年0.1%)と低い。

③ 県内の一部で発生が確認されている。

(6) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は54.3%(平年54.8%)、捕獲数は4.4頭(平年8.92頭/50株)と発生量は平年並みである。

② 予察灯(出雲市)における誘殺数は平年並みである。

③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(7) ニカメイチュウ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 多い

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は28.3% (平年4.3%)、被害株率は1.74% (平年0.17%)と発生量が多い。
- ② 7月第2半旬までの予察灯(出雲市)、フェロモントラップ(出雲市)における誘殺数は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

注) 令和5年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第4号 参照。

(8) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は37.0% (平年41.3%)、捕獲数は5.2頭 (平年6.7頭/50株)と発生量は平年並みである。
- ② 7月第2半旬までの予察灯(出雲市)での誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(9) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は52.2% (平年64.2%)、捕獲数は2.0頭 (平年53.6頭/50株)と発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 7月第2半旬までの予察灯(出雲市)、粘着誘殺灯(出雲市)、ネットトラップ(出雲市)での誘殺数は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は0.0% (平年5.0%)、捕獲数は0.0頭 (平年1.01頭/50株)と発生量は平年並みである。
- ② 7月第2半旬までに予察灯(出雲市)、粘着誘殺灯(出雲市)、ネットトラップ(出雲市)で誘殺されていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は2.2% (平年9.0%)、被害株率は0.2% (平年1.7%)と発生量は平年並みである。
- ② 7月第2半旬までに予察灯(出雲市)、粘着誘殺灯(出雲市)で誘殺されていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 7月13日に出穂している極早生ほ場ですくい取り調査を行ったところ、カメムシ類合計で発生ほ場率は83.3%（平成84.0%）、平均捕獲虫数は13.7頭/20回振り（平成9.0頭）と発生量はやや多い。主要種はアカスジカスミカメであるものの、大型のカメムシ類（ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、イネカメムシなど）の個体数が多い。
 - ② 7月第2半旬までに予察灯（出雲市）での斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメ）の合計が83頭（平成132.7頭）と平成に比べてやや少ない。
 - ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。
- 注）令和5年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第3号 参照。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率4.6%（平成7.3%）と、発生量は平成に比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平成並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率1.7%（平成0.9%）と、発生量は平成に比べてやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生に抑制的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 やや早い
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平成に比べてやや早く、7月第2半旬までの誘殺数は平成に比べてやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

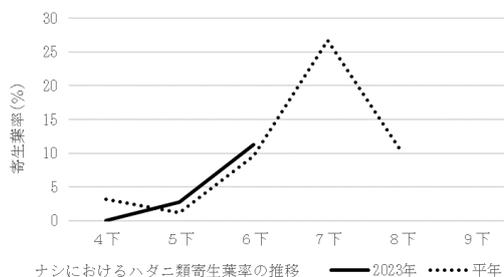
(4) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平成並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、寄生葉率11.3%（平成9.6%）、寄生虫数17.2頭/50葉（平成19.6頭）と平成並みである（右図参照）。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。



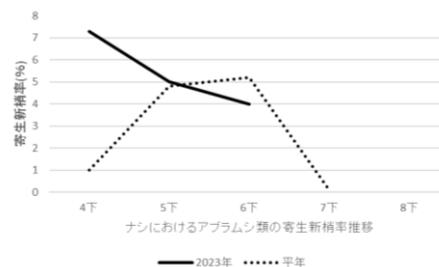
(5) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平成並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、寄生新梢率 4.0% (平年 5.2%)、寄生度 3.3 (平年 2.0) と平年並みである (右図参照)。
- ② 黄色水盤への有翅虫飛来数は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 (感染量) やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率 0.1% (平年 0.4%) であり、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生に抑制的である。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 露地ほ場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

3) 果樹全般 (カキ、ブドウ、ナシ等)

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域 (特にナシ無袋、カキ栽培地帯)
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 7月第3半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は170頭 (平年 455.2頭) と平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病害虫防除所 (島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp